

■ 美濃加茂国際交流協会

美濃加茂国際交流協会は、1991年（平成3年）5月25日に設立され、姉妹都市であるオーストラリア・ダボ市との交流を主要事業として活動してきました。発足以来、毎年ダボ市へ中高生を派遣し、青少年の国際理解、グローバルな人材の育成に力を注ぎ、また2002年には、県立加茂農林高等学校、行政との協働で、ダボ市内の公園に本格的な日本庭園と茶室を造り、ダボ市と美濃加茂市の文化と友好の架け橋となっています。

一方で、現在総人口のうち10%を占める外国人登録がある状況を踏まえ、外国籍住民が抱えるさまざまな問題を解決し、日本人とより良い関係を築くための多文化共生活動にも力を入れています。日本語講師養成講座など外国人の日本語支援、盆踊り講習会、料理交流会などのお互いの文化を楽しむ講座など多文化共生社会実現に向けたさまざまな活動に取り組んでいます。



■ 市議会特別委員会

誰もが住みよいまちづくりを主眼とした多文化共生施策を調査研究するため、平成18年12月議会で『多文化共生・少子化対策特別委員会』が設置され、6人の市議会議員の皆さんが活躍しています。

外国人雇用企業を対象にアンケートを行ったり、豊田市などに行政視察に出掛けたりと、精力的に活動をしています。



■ 古井小学校PTA

子どもたちは総合学習や友達を通してすでに共生の意識が進んでいますが、保護者同士のつながりは薄く、日本の学校のシステムや外国の習慣などを知る機会が少ないです。

そういった問題の改善を願い、2年前にPTAの組織の中に「国際交流委員会」を発足させ、交流会などを行っています。



■ 杉尾セイジンさん

日系ブラジル人の杉尾セイジンさんは、5年前に蜂屋町に家建て、同時に自治会に加入しました。

平成18年度に自治会の班長になり、広報紙を配ったり地域の行事に参加したりしました。

その経験から「共生」の大切さを知り、地域に住むブラジル人に地域の行事などに参加するよう呼び掛けています。

